



社会福祉法人  
八戸市社会福祉事業団

〒039-1166 八戸市根城八丁目8番39号  
電話：0178 (41) 1215 FAX：0178 (45) 1450  
HP：https://www.hsfj.or.jp

## 理事長挨拶

八戸市社会福祉事業団

理事長 原田悦雄

平素より、私ども八戸市社会福祉事業団の運営につきまして、関係各位の皆様からのご理解、ご支援をいただき、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症が日本国内で発生してから二年半以上が経ちますが、未だ終息の見通しが立っていない状況の中、当事業団では、感染予防対策を徹底しながら、利用者の皆様、そして職員の安心と安全を守るとともに、コロナ禍の状況に対応した環境整備に努めているところであります。

また、この間において「うみねこ学園」の移転改築、浩々学園分園「そだちの木」の開設など、施設の整備も進めながら地域福祉の向上に努めてまいりました。

当事業団は、来年二月をもって設立から二十五周年を迎えますが、引き続き、これまで培ってきた専門性と信頼性、経営基盤をさらに強化していくことで、より一層、地域にとってなくてはならない存在となるよう努力してまいります。

そのためにも、全ての職員が良質なサービス提供に専念できる環境づくりと人材の育成が重要と考えており、その先に、この広報誌「ハーモニー」の名前のごとく、利用者様と職員が奏でるハーモニーが心地よく響きあう居場所が生まれるものと信じております。

今後とも、広報誌「ハーモニー」をご愛顧いただきまますとともに、当事業団に対しまして、皆様からの変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

### 社会福祉法人八戸市社会福祉事業団 組織及び事業

事務局管理課	
在宅サービス課	老人居宅介護等事業・障害福祉サービス事業・訪問入浴介護事業・居宅介護支援事業・訪問入浴サービス事業
うみねこ学園	障害児入所施設・障害福祉サービス事業・指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業
うみねこ塾	障害児通所支援事業
いちい寮	障害者支援施設・障害福祉サービス事業・指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業・日中一時支援事業
長生園	養護老人ホーム
長生園デイサービスセンター	老人デイサービス事業
浩々学園	児童養護施設
小菊荘	母子生活支援施設



## 花火大会・いちい寮祭

### 障害者支援施設 いちい寮

いちい寮では、コロナ禍ではありましたが、少しでも入所者に楽しんでいただくよう、昨年度新たな試みとして2つの行事を開催しました。

まずは、8月に親子レクリエーションを兼ねた花火大会を開催しました。八戸花火大会なども手がけている花火会社に協力いただき、迫力ある打ち上げ花火を楽しんでもらいました。屋外開催ではありましたが、参加された入所者と保護者の方には、感染防止対策としてグラウンドに駐車した車の中で各々見ていただきました。当日は朝から雨模様で肌寒かったこともあり、一部の入所者は施設内からの観覧となりましたが、打ち上げ花火が始まると、「音がすごいね」「きれいだね」などと話していました。初めて花火大会を実施しましたが、入所者や保護者の方はもちろんのこと、地域の方々にも楽しんでいただけた行事となりました。

また、11月にはうみねこ学園移転に伴い、施設開設以来初の単独開催となるいちい寮祭を行いました。久しぶりの大きな行事ということもあって、入所者も準備の段階から張り切っており、職員と一緒に熱心に飾りつけなどの会場づくりに取り組みました。祭り当日は、職員お手製の屋台による射的やくじ引きなどのゲームコーナーで景品を手に入れて、楽しんでいました。食事のメニューもお祭りの雰囲気が出る焼きそば・たこ焼きのほか、スープやスイーツなど盛りだくさんで、喜んでいただけたと思います。祭りの終盤には、ピエロやマツケンに扮した職員が登場し、入所者と一緒にマツケンサンバの曲で盛り上がりました。コロナ禍での開催だったため、換気を徹底し、男女それぞれ時間をずらして屋台を楽しんでいただくなど、感染防止にも配慮いたしました。

コロナの終息はいまだ見通せない状況が続いていますが、今年度も感染防止策を講じた上で入所者に喜んでもらえるような行事を数多く企画していきたいと思えます。

(村本 絢美)



## いづも会行事

### 母子生活支援施設 小菊荘

小菊荘では、母子で参加する施設全体の行事と、小学生以上の子どもが参加することも会の行事があります。行事を通して、子ども達同士で話すきっかけを設けるようにしています。今年度のこども会の行事として、6月12日に八戸市児童科学館へ行ってきました。

参加した子どもと職員で、市営バスに乗り現地へ行きました。市営バスに初めて乗車する子どもは、降車時に運賃箱に入れたお金と整理券が流れていくのをじっと見ていました。

児童科学館の中にあるプラネタリウムを観覧し、その後はスライム作りに挑戦しました。子ども達がそれぞれ好きな色を選び、職員と一緒に説明書を読みながら作りました。できあがったスライムを割ればしで持ち上げてみたり、両手で丸めて感触を楽しんでいました。

また、目の錯覚コーナーでは、様々な絵を見て「見える見える！」と話す子どもに対して、他の子どもが「見えない」と言うと、「ここからなら見えるよ」と教えている姿も見られました。

すぐに打ち解けている姿を見て、このようにして子ども達の社会性は培われていくのだと、改めて感じる事ができました。

(岩間 慶子)





調理実習

障害児入所施設 うみねこ学園

早いもので、うみねこ学園が鯨地区に移転して3年目を迎えました。子ども達も学園での生活に慣れ、新しく入所した子に学園のルールを教えたり、一緒に遊んだり、協力して清掃活動を行うなど、集団生活の中で社会性を身につけていく様子が見られています。本来であれば、鯨地区での地域活動やグループ外出などを子ども達に経験させたいのですが、新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度も実施することができませんでした。

しかし、将来の自立を考え、昨年度から園内での調理実習を取り入れることとしました。子ども達からメニューの希望についてアンケートを取り、即席ラーメン・カレーライス・肉じゃが・ハンバーグ等を作りました。切る、炒める、盛り付けるなどの工程を体験しました。子ども達からは、「包丁の使い方が難しかった」「自分で作って食べるのは楽しい」「うまくいかなかったからもう一度作りたい」等、たくさんの声が聞かれました。



今年度は、引き続き調理実習を実施する予定ですが、タブレットを使用し、必要な食材を調べて買い物へ行き、自分で弁当を作る所までやってみたいと考えています。

今後も、卒業後の自立を目指した支援を実施していきたいと思えます。

(宮川 朋和)



3年目を迎えました

放課後等デイサービスセンター

うみねこ塾

うみねこ塾は開設から丸2年がたち、定員10名のうち毎日9〜10名の子どもが利用しています。

月曜日の絵画教室では、参加している子ののびのびと描いている様子が印象的です。火曜日の書道教室では、先生や周りの子との字をお手本に書いたり、先生や周りの子との会話に花を咲かせたりしながら参加しています。水曜日のワクワクタイムでは、制作や調理、音楽、運動などを実施しています。音楽は、様々な曲に合わせて自由に走ったりスキップしたりするリトミック遊びのほか、手遊びや体操・ダンス等をしており、曲が流れてくるとみんな自然とホールに集まってくるほど楽しんでいきます。運動では、主にサーキット遊びで体を動かしています。体操マットやトランポリン、平均台やトンネル等を利用

用してホールを広く使ったのびのびと活動しています。木曜日のスポーツ教室では、先生方と触れ合いながら楽しく体を動かしています。スポーツ教室は特に利用希望者が多く、キャンセル待ちが出るほどです。

外部講師による各教室やワクワクタイムは、保護者の皆様にも好評をいただいております。また、余暇活動では、多目的ホールにある大型遊具のサイバーホールで遊んでいます。今年度はマルチファンクショントンネルが仲間入りし、サイバーホール遊びがパワーアップしました！飛んだり跳ねたり、登ったり降りたりと、子ども達は目いっぱい体を使って遊んでいます。

日々の子ども達の様子は、定期的にホームページやうみねこ通信にて発信しています。さらに今年度からは、保護者の皆様との新たな連絡手段として緊急メール配信を実施しています。緊急時や新型コロナウイルス感染症防止のための急な閉所などの際には、メールにて迅速に情報をお伝えできるようになりました。これからも、子ども達の様子やうみねこ塾の情報などを、様々な方法で発信していきたいと思えます。

(鳥山 紗妃子)





分園「そだちの木」を開設しました

児童養護施設 浩々学園

浩々学園分園「そだちの木」は、令和3年11月に開設しました。現在、男子6名が生活しています。施設内には、キッチン兼リビング、洗面所、風呂場、トイレのほか、子ども一人ひとりの個室があります。

分園での生活が始まった頃は、本園における大人数での生活から少人数での生活に変わったことで、寂しさを訴え、落ち着かない様子を見せる子もいましたが、現在では、分園にも慣れ、それぞれの時間を大切にしながら穏やかな生活を送っています。

分園のメリットとしては、子どもの個室があることで、プライベートが担保されたことが挙げられます。家庭的な環境で、職員・子どもともにも相手との距離が縮まり、今まで以上に親密なコミュニケーションを取ることができるようになりました。さらに、少人数で意見が言える環境、自分のことは自分でやらなければならぬ環境へ変化し、相手を思いやる気持ちや気遣いを持ちをもって生活していくことで、自立へ向けて行動する姿が見られるようになりました。

今後は、調理体験や家事全般の体験を増やし、自立に向けての生活訓練の機会を作っていく、小規模の分園施設だからこそできる支援を常に考えていきたいと思えます。

(鳴海 あさひ)



静養室をリニューアルしました

養護老人ホーム長生園

長生園では、感染症対策を強化するため、令和4年3月に静養室の個室化改修工事を行いました。

改修工事は、新型コロナウイルス感染症の感染が疑われる入所者とその他の入所者を、空間的に分離して感染の拡大を防ぐため、多床室であった静養室を個室化するために実施しました。エアコンと換気扇を新たに設置し、入所者が安全かつ快適に療養できるように、室内環境を整備しました。

また、療養中の入所者を、職員が部屋に入ることなくこまめに観察できるように、室内の壁に小窓を設けました。これらの改修工事を経て、静養室は、具合の悪くなった入所者が快適に療養できる空間に生まれ変わりました。

入所者の皆様が、元気に長生きして、園生活が送れるよう、これからも職員一丸となって、質の高いサービスを提供してまいります。

(玉川 悠理)



より良い支援を目指して

在宅サービス課

居宅介護事業では、4月から新しいサービス提供責任者の育成が始まりました。

サービス提供責任者の業務は、ヘルパーの調整や指示などのコーディネーター業務のほか、ケアマネジャー、利用者及び家族などとの連絡・連携を円滑に行う窓口的な役割を担うとともに、現場での介護業務、課内研修の担当など多岐にわたります。

これらの業務を確認しながら進めるために、「サービス提供責任者業務マニュアル」の作成を進めています。

他の職員とも情報共有しながら、業務内容やプロセスをお互いに確認し、新任のサービス提供責任者の育成を図っています。

一方、居宅介護支援事業では、4月1日からケアプランセンター長生園と統合しました。ケアマネジャーも1人増え、定期的に開いているケアマネ会議で情報共有や意見交換をしながら、利用者やその家族の介護に関する様々な相談に応じています。

(横濱 優子)





## ≡ 新任職員紹介 ≡



うみねこ学園  
園長 木崎 達広  
趣味：ヴァンラーレ八戸の応援・  
新聞の切り抜き  
身体に気を付け（熱中症にも）がんばります。



うみねこ学園  
児童指導員補助 中村 賢明  
趣味：映画鑑賞・キャンプ  
日々成長できるよう精進します。  
よろしくお願いいたします。



うみねこ学園  
児童指導員 榎本 恵蓮  
趣味：運動  
早く仕事に慣れ、一生懸命頑張ります。



うみねこ学園  
保育士 太内田 鈴菜  
趣味：バドミントン  
子ども一人ひとりに合った支援をしていきたいです。



うみねこ塾  
保育士 鳥山 紗妃子  
趣味：ホラー等の映画・ドラマ観賞  
子どもたちとの関わりを楽しみながら頑張ります。



いちい寮  
生活支援員 中村 博之  
趣味：旅行・温泉  
わからないことばかりですが、利用者様のすやかな生活のために頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



いちい寮  
生活支援員 田中 和樹  
趣味：自転車・バイク・ダーツ・  
野球・金魚  
利用者様がよりよく過ごせる様、頑張っていきます。気合だけではありません！



いちい寮  
生活支援員 古舘 千穂子  
趣味：猫、スポーツジム  
まだまだ半人前の私ですが、みなさんが楽しく過ごしていただけるよう、元気いっぱい頑張ります。



長生園デイサービスセンター  
看護師 安藤 恵子  
趣味：音楽鑑賞  
仕事で、ご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、早く仕事を覚えられるように頑張ります。よろしくお願いいたします。



長生園デイサービスセンター  
介護員 荒道 恵子  
趣味：少年野球の観戦・家庭菜園  
利用者の皆様に楽しんで元気にすごしていただけるよう、笑顔で頑張っていきたいと思います。よろしくお願いいたします。



浩々学園  
児童指導員 内村 円香  
趣味：バドミントン・カフェ巡り  
子どもたちが安心して生活できるよう、頑張ります。



# 令和3年度 決算報告

資金収支計算書 (自)令和3年4月1日 (至)令和4年3月31日

(単位:円)

勘定科目	予算	決算	差異
事業活動収入計(1)	970,772,000	985,275,112	△ 14,503,112
事業活動支出計(2)	993,005,000	951,213,946	41,791,054
事業活動資金収支差異(3)	△ 22,233,000	34,061,166	△ 56,294,166
施設整備等収入計(4)	8,978,000	9,926,000	△ 948,000
施設整備等支出計(5)	98,831,000	92,410,960	6,420,040
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 89,853,000	△ 82,484,960	△ 7,368,040
その他の活動収入計(7)	40,000,000	40,000,000	0
その他の活動支出計(8)	55,085,000	41,008,731	14,076,269
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 15,085,000	△ 1,008,731	△ 14,076,269
予備費支出(10)		-	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△ 127,171,000	△ 49,432,525	△ 77,738,475
前期末支払資金残高(12)	382,476,000	382,480,122	△ 4,122
当期末支払資金残高(11)+(12)	255,305,000	333,047,597	△ 77,742,597

事業活動計算書 (自)令和3年4月1日 (至)令和4年3月31日

(単位:円)

勘定科目	当年度決算	前年度決算	増減
サービス活動収益計(1)	980,709,867	975,069,569	5,640,298
サービス活動費用計(2)	994,038,815	917,891,275	76,147,540
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	△ 13,328,948	57,178,294	△ 70,507,242
サービス活動外収益計(4)	4,565,245	3,738,041	827,204
サービス活動外費用計(5)	2,677,721	2,771,999	△ 94,278
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	1,887,524	966,042	921,482
経常増減差額(7)=(3)+(6)	△ 11,441,424	58,144,336	△ 69,585,760
特別収益計(8)	10,648,700	6,288,612	4,360,088
特別費用計(9)	9,926,001	5,118,087	4,807,914
特別増減差額(10)=(8)-(9)	722,699	1,170,525	△ 447,826
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	△ 10,718,725	59,314,861	△ 70,033,586
前期繰越活動増減差額(12)	664,716,448	655,415,523	9,300,925
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	653,997,723	714,730,384	△ 60,732,661
基本金取崩額(14)			
その他の積立金取崩額(15)	40,000,000		40,000,000
その他の積立金積立額(16)	41,008,731	50,013,936	△ 9,005,205
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	652,988,992	664,716,448	△ 11,727,456

貸借対照表 令和4年3月31日現在

(単位:円)

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	389,949,445	431,978,574	△ 42,029,129	流動負債	105,117,521	85,839,125	19,278,396
				固定負債	234,605,000	254,549,000	△ 19,944,000
固定資産	1,908,315,607	1,907,440,991	874,616	負債の部合計	339,722,521	340,388,125	△ 665,604
				純資産の部			
基本財産	1,299,141,519	1,361,168,708	△ 62,027,189	基本金	3,000,000	3,000,000	
				国庫補助金等特別積立金	864,834,572	894,604,756	△ 29,770,184
その他の固定資産	609,174,088	546,272,283	62,901,805	その他の積立金	437,718,967	436,710,236	1,008,731
				次期繰越活動増減差額	652,988,992	664,716,448	△ 11,727,456
資産の部合計	2,298,265,052	2,339,419,565	△ 41,154,513	(うち当期活動増減差額)	△ 10,718,725	59,314,861	△ 70,033,586
				純資産の部合計	1,958,542,531	1,999,031,440	△ 40,488,909
				負債及び純資産の部合計	2,298,265,052	2,339,419,565	△ 41,154,513